上条
報告
第４６号
平成25年3月
甲州市教育委員会
☎32 - 5097

【続報】甘草を活かしたまちづくりについて

先月号で報告しましたが、二十五年度から甲州市では、甘草屋敷の甘草を活用したまちづくりを行うため、甘草栽培を始めます。二月十五日に関係者が出席し、「包括的連携協定」の調印式が旧高野家住宅・主屋で行われました。

甘草は漢方処方の七一パーセントに含まれる、大変重要な原料ですが、ほぼ全ての量を中国などからの輸入に頼っています。今回甲州市が協定を締結した新日本製薬グループ（福岡県）は、早くから甘草の国内栽培に取り組んできた会社です。

調印式には、立会人として山梨県農政部長も参加されたほか、すでに栽培を始めている熊本県合志市と新潟県胎内市の担当者、さらに甘草屋敷の甘草をずっと注目していた研究者である草野源次郎先生も参加され、その様子は多くのマスコミにも取り上げられました。

調印後握手する新日本製薬・後藤社長（左）、市長（中）、新日本医薬・高須賀社長（右）。

甲州市では、昨年の十二月から庁内の関係者を集めた「甲州市甘草の里づくり研究会」を発足させ、今後の取り組み方について協議をしています。

甘草栽培は遊休農地対策に効果があるものと期待されており、山梨県も注目しているところですが、現実的には中国から安価で入ってくる甘草との競争になり、漢方薬の原材料としての甘草単体ではとても勝負になりません。甘草を栽培して、なおかつ今後のまちづくりに資するためには、甘草の利活用も同時にしていく必要があります。

そのため研究会では、「地域の歴史・文化資源を活用した甘草の里づくりビジョン」を作成すべく、検討を行っています。

また、市民による甘草栽培の取り組み促進と普及を図るため、「甲州市甘草活用懇話会」を設立しました。この懇話会には、公募による委員も含まれています。

協定調印式の前日、二月十四日には懇話会の委嘱式と、懇話会・研究会共同の学習会が開催されました。学習会は新日本医薬の開発事業室次長・長根氏が司会を務め、甘草の現状を解説されたあと、熊本県合志市と新潟県胎内市の栽培事例についてと、今後甲州市で実施する取り組みについてが報告されました。

甘草について説明する長根氏（上）と、学習会の様子（下）。

十五日の調印式は、ひな飾りを展示中の旧高野家住宅の主屋で行われました。田辺市長と、新日本製薬社長・後藤孝洋氏、新日本医薬社長・高須賀佳人氏の三氏が協定書にそれぞれ記名押印し、立会人として県農政部長・加藤啓氏がサインしました。

協定書の内容は、新日本医薬が甲州市での甘草栽培について、苗の提供やノウハウの提供を含めて全面的な協力をすること、甲州市はわが国最古の甘草を保持する地として、他の栽培自治体との交流や情報発信に務めること、などです。

甘草屋敷の甘草が、これほど重要視されているとは考えていませんでした。これからは色々な方法で情報をお伝えしていきますので、ご注目ください。

調印式の様子（上）と、調印した協定書を手に並ぶ高須賀社長・後藤社長・田辺市長（下）。

関係者が集まり記念写真。

国が選定する重要伝統的建造物群保存地区は、制度ができてから三十三年で一〇二件を数えます。伝建ではないもののその地区の歴史的建造物を大切に保存し、上手に活用することで、独自のまちづくりを行っているところもあります。上条報告第十五号で紹介した岐阜県中津川市の馬籠宿や、同四十一号で紹介した北海道小樽市、また、本誌ではまだ取り上げていませんが、静岡県蒲原町の蒲原宿、長野県小布施町などはその例で、馬籠宿や小樽市は今後も伝建の制度に頼らずにまちづくりを続けていくのだろうと思われます。

そのいっぽうで、同様な取り組みをしながら伝建地区を目指している地区もあります。長野県松本市の**中町通り**もそういうところです。

松本市は長野県のほぼ中央に位置しており、人口は二十四万三千人を超える大都市です。中央道を使えば二時間弱の距離なので、観光で訪れたことのある方も多いと思います。

松本市の観光地として思い浮かぶのは、まず松本城でしょう。松本城は戦国時代の末に築城され、石川・小笠原・戸田・松平・堀田・水野など多くの大名が入城しました。明治期に大改修が実施され、昭和十一年に国宝に指定（昭和二十七年に再指定）されています。

松本城の城下町として**中町通り**があります。

国宝松本城と堀。

中町通りの様子。

中町通りは、西から東へ抜ける善光寺街道（北国街道西街道）沿いにあり、主に酒造業や呉服などの問屋が集まり繁盛してきました。しかし江戸末期や明治に南深志一帯が大火に見舞われ主要な施設や町家が多数失われました。再三にわたる火災から守るため、商人たちの知恵で「なまこ壁の土蔵」が造られました。

白と黒との簡潔なデザインの土蔵造りの家が、中町付近には今なお多く残っており、古き松本の雰囲気を漂わせています。現在の中町は民芸・工芸などの店が集まり、独特の町並みをつくっています。

左の写真は「中町蔵シック館」という施設で、床も柱もケヤキ材を多用しています。

蔵シック館。総ケヤキの光沢が印象的な、なんとも贅沢な建物です。

蔵シック館の運営や通りの宣伝活動は、松本市中町商店街振興組合が行っています。蔵シック館では各種の催しや商談会が随時開催されています。

通りもきれいに整備されており、外観は古くてもおしゃれな店が並んでいます。松本城から徒歩で十五分程度ですので、松本城とセットで散策してみてください。